

24日、初の校外青空市

特支松崎分校 生徒手掛けた製品販売

県立東部特別支援学校伊豆松崎分校(村本幸雄校長)は24日、松崎の俳句交流館を会場に、初の校外「青空市」を開く。農園芸、木工、陶芸の3班ごとに生徒たちが手掛けた一般向けの製品を、求めやすい値段で販売する。同校の生徒会は「どれも皆さんに喜んでもらえるよう、心を込めて製作した。ぜひ気軽に足を運び、手にとってほしい」とアピールしている。

日頃の作業学習の成果発表を兼ねた取り組みで、今回初めて校外に出て販売する。当日

は、農園芸班がつる編みのかごで仕上げた花の寄せ植えを約30鉢用意。木工班は本立てやコースター、箸置きを、陶芸班は大小の皿やボウル(菓子鉢)をそれぞれ多数出品する。

より多くの人に会場してもらえよう、PR用のポスターやチラシ(80部)も製作。生徒たち自ら、会場付近に配布した。

時間は午前11時〜午後1時半。売り切れ次第終了する。新生徒会の日向拓未会長(2年)、寛幸子副会長(1年)は「私たちが一生懸命作った作業製品を販売する。接客についても授業の中で取り組んできたので、ぜひたくさんの人に来てほしい」と呼び掛けている。



当日出品する手作りの製品とポスターを手に初の「青空市」校外開催をPRする日向君(右)と寛さん。東部特別支援学校伊豆松崎分校

伊豆新聞

2月18日